波佐文化協会の歩み (PDF版)

2

1. 手づくりのふるさとカルチャー

- ・ミニコミ誌・季刊『なわて』の発行
- ・リーダー養成講座『波佐寺小屋セミナー』の開講
- ・ふるさとカルチャー『なわて塾』の開講

② 手づくりのふるさとカルチャー

- ・生涯学習によるコミュニケーションの復活を見届け、11年目から地域のミニコミ誌を発刊。 リーダー養成を目指すことを目的に、昭和61年7月に広島大学と提携した講座を設立した。
- ① ミニコミ誌季刊「なわて」を発刊全戸無料配布を11年間行う。
- ②リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」の開設。13回コースで2年間開設。48名受講。
- ③ ふるさとカルチャー「なわて塾」開講7年間。

【編集委員】

槇田修身、榎時男、上田房一、沖田トシエ、 佐々木八重子、隅田正三、岡本正儀、 十年間届け続けたのである。 このミニコミ誌・季刊「なわて」 は無料配布として全戸に 美川栄、 田中タキョ、

取材を分担して開始した。

七月十五日に創刊号を発行することができた。

3 (1) ドニコミ誌、 享受型学習からの脱却 季刊『なわて』

の発刊

刊『なわて』を発行することとして三カ月間準備期間をお 民館事業に委譲してから、 地方では縄手 基本としてスター 民に広く周知するとい 企画してスター 委員会を四月以降に 昭和五十七年四月より「波佐成人学級」の運営を波佐公 ミニコミ誌「なわて」の掲載記事の内容を検討する編集 昔は街道(往還道) スポ 町の広報紙などに掲載されない記事を地域住 (なわて) させた。 ツ、 数回開催して毎号特集、 うものである。 という名称で呼んでいた。 波佐文化協会ではミニコミ誌季 「なわて」とはあぜ道を意味し 創刊号は七月中旬を目標に各々 につながる「あぜ道」 ズ環境保全、 勿論全戸無料配布を 文芸、 グルー などを プ紹介、



季刊「なわて」編集会議の模様



公民館の管理運営に対する感謝状

長年の公民館管理と活動をたたえ

波佐文化協会に感謝状



管理運営を中心とする活動

(隅田正三会長) 育委員会から、

波佐文化協会

四月一日か

た波佐公民館は、 て各種成人学級や寺小屋セ 大きな役割を果たしています。 の発展や郷土愛の推進向上に の管理運営にあたり地域文化 設置の昭和四十七年以来、 ら波佐自治会に管理委託され この間には、 波佐文化協会は波佐公民館 なわて塾など生涯教育 他にさきがけ

「かなぎ」(H6年4月)より転載



季刊「なわて」発刊 昭和57年~平成5年

てよう、という編集スタッフでも近づこう、地域文化を育

亲斤

李瓦

ジを広げてもあの人、この人 だけ。どこにこんな多くのネ 血は充実している。どのペ タがあるのか、と思うほどは

在は波佐公民館主催)で機関

た同協会主催の成人学級(現 アイデア。四十七年に始まっ

を数えた。配事は液佐の活題

を発行して以来、発行は七片

ミニコミ誌作りは、隅田の

う。五十八年七月に創刊

コミ誌がある。「なわて」と に地域の情報を網らしたミニ いう県境の小さな地区。ここ

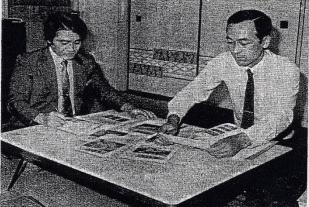
(三人)一いずれも波佐郵便局員

もちろん、地域のオピニ 「波佐を何とか住みよい

「なわて」の由来は、細手



誌「なわて」



実を見られなかった。 ワシも 印記者のように冷静な目で現

吸佐の人間。

古里の惨状に気

動転してしまった」と加納

は振り返る。

キメ細かな情報

づいてきた証拠。隅田と加納 れだけ「なわて」が地域に根

ししさに拍車がかかるが、そ

プ紹介、お年寄りの生きがい の情報、文化財探訪、グルー していった。キメ細かな地域 地面は号を重ねるごとに充実 そんな苦労を重ねながら、

次回は島根県赤来町を訪ね

行錯誤は続く。 オン・リーダーとして、将来 たい」。スタッフの音がと試 情報誌としてすっかり定滑し が登場。町民には身近な生活 町にして、文化の波紋を広げ へ向けての問題提起も忘れな

益田市

の願いが込められている。そ は、隅田正三(***)、加納昭川 化協会・なわて編集スタッフ のスタッフ。正式には液佐文 誌作りを担当していた隅田が 十年来、じっと温めていた構

> 降の一助になれば、と思っ 誌を発行することで、文化與

民具を守る会」の会員でもあ 文化グループ「西中国山地・

る。その会員で同じ戦場の加

昭和60年10月12日(土曜日)

十戸。峠を越えれば広島県と

≥15

山陰の町・村

の意識面はどうか。ミニコミ 整ってはきたが、文化面、人 えている。住環境はなるほど 場の進出などでリターンが増 稼ぎの町。そして近年は新工 想だ。隅田はこう説明する。 「波佐は昔は高齢化社会で出

> 素人のスタッフ B5判、八字から士二字ま

た。隅田は波佐を中心にした でで季刊。いざ作る段になっ て隅田は編集スタッフを集め な人や、身近な話題を発掘す た。残りの四人は文芸の好き 俗資料関係のガリ刷りを手掛 けたい」という希望を持って **納に真っ先に声を掛けた。「民** た加納は即座に引き受け

る主婦ら。 う人たちばかり。当然、誌面 ては取材、編集は初めてとい 波佐川の護岸が決壊して、死 素人の集まり。隅田を除い 雨。波佐では た。 58・ 7豪 苦労も味わっ 作りは難航、 にとどまらず、 の場として意義が大きい

中

占こそ出なかったものの壊滅

関田は県外へ出張中。加納は

くてね。このほど発送の代行 らスタートしたが、注文が多 も引き受けましたよと隅田。 送りたいという申し込みも多 く現在は七百部に増刷してい 円で手渡す。最初は五百部か 布。二冊目以降は希望者に百 は地区の二百八十戸に全声配 資金は地区民からの否付で 地区民も信頼 「県外に出ている家族に 刷り上がった「なわて、

ャッターが押せなかった。一新 直視した加納は、カメラのシ 民家の数々。せい惨な状況を

る蜀流と、無残に崩れ落ちた

材に駆け回った。目の前に迫 カメラとノートを持って、い 的な打撃を受けた。大黒柱の

もまじめだ。単なる文化活動 立派な記事で、その取り組み 田や加納は自負する。アドバ のほか、毎号特集を組む。一葉 財政課長は「借りものでない イス役の町役場の小金進企品 めた。どこへ出しても必ずか 地区民の声を幅広く拾って集 さと再発見」(5号)など。 紀への提言」(3号)「ふる しくない結面ができた、と四 (2号)

最新号が届いた。その中で

「波佐寺小屋セミナー」の

クなミニコミ誌「なわて」

明 窓

との金城町波佐からユニー だろう。その島根側のふも 牛 客でにぎわった も大勢のスキ 名。この日曜日 境の大佐山はス 島根、 ー場でも有 広島県

に送るため家族が求めてい 細かく取材。 月に創刊。素人の編集スタ くほどですっかり定着した でつくる波佐文化協会(隅 ながら、 ッフが地区内の人やグルー 田正三会長)が五十八 身チベット探検を敢行し た能海寛の出身地でもある 仏教のルーツを求めて単 広がっている。明治時代、 新しい町づくりへの試みも 紙研修館も建設されるなど づくりを復活させようと和 百人の静かな農山村。近年、 工場の進出やかつての和紙 佐地区は二百八十戸、約1 「なわて」は地元の有志 風物、 県外の出身者など 文化財などきめ 年四回の発行

うで、 を、

電話口での隅田会長

の声も弾んでいた。

学生を招いての国際交流

との話も進んでいるよ

を交えたこれまで五回の話

し合いの中からは、外国留

じ線上にあるもの。講師陣

寺小屋と地域の文化振興を もという、 ざま。地区外からの希望者 古里をよくしたいと願う同 目指す「なわて」の活動は、 もあって現在四十八人が 農業、主婦など職業もさま ら三十代。会社員、公務員、 するが、受講生は二十代か 談会、県外講座などへ出席 ▼参加者が身銭を切ってで 料を払い、二年間に十三同 には一人月額三千円の受講 得られた▼寺小屋生になる にこたえようと昨年夏スタ 土曜の夜、公民館に集まる 育学部などの全面的協力が 養成だ。地区民の学習意欲 が人づくり、特にリーダー 地域づくりで欠かせないの 果を上げたが、 区の成人学級は、 年前から続けられ 化協会の活動の一つ。 (一回一時間)の講座や座 ▼波佐寺小屋セミナ ト。講師陣には広島大教 いわば これからの (民活) 一応の成 てきた地

活動報告が目を引いた▼波

リーダー養成講座 「波佐寺子屋セミナー」

昭和61年7月~63年3月

上松前酒上隅中加隅河横岡隅三芹小能飯河田槇山能相山川田井田田谷納田崎山本田浦原金海田野中田崎海木忠重詳憲克静忠昭哲 隆正正哲博昭俊忠一夕修義 正治幸二正紀子夫則夫忠子儀三夫正雄子子秀ヨ身高登男

田青岡中加佐槇前小槇美上西松佐小斎能小清岡上沖中木本田納岡田田森田川山谷川岡金藤海川水本田田奈 利敏美常浪 一郁 勝友正良仍壽新 文房之子党道幸子喜子寛男夫栄子紀幸子子延一孝惇男一子

創刊号 S61.9.25 波佐文化協会 為根果那質都全城町

波佐寺小屋セミナー受講者ただ今45名

波佐文化協会では、長い間の念額であった生涯教育の振興を実践して満 14年を迎えました。この過程の中で地区民の意向をくみとり、昭和61 年度から2カ年事業として、リーダー養成講座「液佐寺小屋セミナー」を 開講いたしました。

このセミナーは、広島大学教育学部の全面的なご支援をいただき開講するもので、2ヵ年間で10回の講座を受持っていただきます。又、中央からも年1回は大型講師も招へいし、2ヵ月に1回の割合で開講し、都合12回コースとし、その内8講座以上を受講されたお方には修了証を伝達いたします。その間には、広大への現地ゼミも行ないます。

波佐寺小屋セミナー

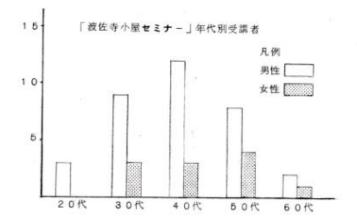
第1回講座· 広大助教授佐 々木正治先生

このセミナーの「液佐寺小屋」の名づけは、液 佐地区出身の明治の傑人・チベット探険家の能海 寛師が明治28年に益田沖の高島で「寺小屋」を 設立したあの教育の原点を思うとき、先人の歩ま れた意志を今日に生かすため名づけました。

幸いにも、この主旨をおくみとりいただき、現



「 波佐寺小屋セミナー 」 開講式 S61.7.19 の模様



在45名の受講者の皆さんが期待に胸をふくらませて受講いただいております。 このたびから、「セミナーだより」を発行いたすこととしましたので、受講 者の皆さんからも、ご投稿いただき、より輪を広げていきたいと思いますので ご協力をお願いします。

なお、セミナーの開講されない月には、読んで学習できる資料を送付します ので、一読後は必ずセミナー綴にファイルしておきましょう。

次回セミナーのご案内は、下欄のとおりです。開講日には、10分前までに 席について講師先生を迎えましよう。



第2回謙座·広大教育学 郭長山本多喜司先生

波佐寺小屋セミナーごあんない

③演題「未来からの社会教育」 =社会教育の明日を考える=

講師 · 広島大学教育学部教授

小笠原 道 雄 先生

日時·昭和61年10月11日(土)

PM7:00-9:00

会場 • 波佐公民館

②演題「酒と旅と人生と」

講師・随筆家、評論家(東京在住)

佐々木 久 子 氏

日時·昭和61年11月22日(土)

② リーダー養成講座『波佐寺小屋セミナー』の開

た結果教育学部を挙げて支援をしてあげようという快い返 指導を仰ぐことに決して山本多喜司教育学部長に相談をし 望まれるようになってきた。 に到達したけれども、 波佐成人学級を十年間継続したことで、 底辺の底上げを実施した結果、 することとなった。 人学級の各部長、 養成講座「波佐寺小屋セミナー」を開講 より一歩前にでるリーダー そこで、 副部長のリ 広島大学教育学部に ある程度までは目標 ーダー 住民の学習意欲 シップも高 -の育成が

圣費は毎月三〇〇〇円、二カ月に一回、桐構けるこうらりをする研修生を募集することとした。のリーダーたりえる人々に呼びかけ、リーダーたる人づくこの際、地域、職域、町内会、家庭、それぞれの立場で

スタイルで実施した。受講生は次のとおり。(敬称略)経費は毎月三〇〇〇円、二カ月に一回、開講するという

本文男、槙田修身、清水惇、田中タキヨ、小川孝、河野一相木正男、沖田トシエ、能海登、上田房一、山崎義高、岡

以上の四十七名の受講者であった。 横山隆子、 前田祥二、青木覚、松川重幸、 加納昭則、槙田浪子、中谷忠夫、佐々岡常喜、 西谷友紀、 加納美代子、 小金昭雄、 槙田郁夫、河崎忠、 隅田正三、上山勝子、岡本正儀、美川栄、 飯田忠子、斎藤寿栄延、 佐々岡良子、芹原博正、 上田克紀、中田敏幸、 小森一男、 田中奈保子、 能海俊子、 松川正幸、 酒井憲正、 隅田哲夫、前田 上山忠治 三浦哲 岡本利 隅田静 小金仍

第二十一世紀へ向けての生涯教育の課題』 開講日=昭和六十一年七月十九日(土) 開講日=昭和六十一年七月十九日(土)

される旨を周知した。

される旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

でれる旨を周知した。

目標を模索する上で大きな示唆を得た。する生涯教育と諸外国の事例を話され、これからの課題、を切った。佐々木先生は、人生八十年の高齢化社会に対応開講式に続き、佐々木先生の講義でセミナーのスタート



波佐寺小屋セミナー開講式 (S61.7.19)



第1回セミナーの模様

【第二回波佐寺小屋セミナー】 開講日=昭和六十一年八月十六日 (土) 『魅力あるリーダーとは』

広島大学教育学部長 Ш 本 多喜司 先生

『未来からの社会教育』

広島大学教育学部教授

小笠原

道

雄

【第三回波佐寺小屋セミナー】

開講日=昭和六十一年十月十一日

 (\pm)

続学習ができることに受講生一同喜んだ。 イングなども導入して内容のある講演であった。 「リーダー養成講座」に相応しい講義で、 山本先生の著書 本講座のメインとしているリー 『リーダーシップ』の配布もいただき継 ダーシップを発揮できる ロール・プレー



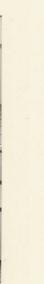
第2回セミナーの模様

②学校教育と社会教育の接点。 これらについて講演をいただい ③社会教育の新しい構想 ①今日の子供と学校について。 た。

【第四回波佐寺小屋セミナー 『酒と旅と人生と』 開講日=昭和六十一年十一月二十二日

随筆家、評論家 佐々木 久 子 先生

を巧みな話術で講演され、聴講者へ多くの感銘を与えた。 わたる「酒」と「旅」をとおして得られた人生の喜怒哀楽 「酒」と人の関わりのみでなく、佐々木先生の三十余年に ダー たるものは、酒と無縁ではおれない。 ただ単に





波佐寺小屋セミナー

第4回セミナーの模様

【講師先生のコメント】

寺小屋セミナーに想う

佐々木

久

子

単なことのようだが、 字を忘れているのか? 本を読む、字を書く、そろばんを入れてみる。 ても、意外にポッとして見過ごしているのが常である。 大脳皮質が古くなっている証しを毎日のように感じては 人間の記憶力はどんどん退化してゆく。 実際にはむつかしい。 と我ながら驚くことばかりである。 こんな簡単な文 とても簡

> かりの自分自身を情けないなあと思っている。 毎日の新聞ですら、大きな活字ー見出しを追い か けるば

学ぶ姿勢を忘れているのが普通の人間である。 なのに、 生涯教育の大切さは、頭のどこかではわかっ 山深い里に暮らしておられる方々が てい 「寺小屋セ 7

冷や汗を流した。 の人たちを侮っていたと思う。 ミナー」を続けておられることは唯々、驚きであった。 招かれて波佐を尋ねたとき、 穴でもあれば入りたい 私は、心のどこかで、

人たちだろう、 寺小屋セミナーに参集された老若男女のなんて素晴らし と感服した。

熱とイキイキしたまことの人間が住んでおられた。嬉しかっ ておられるのであった。 た。尊いことだと思った。まことの日本人は、雪深い里に、 あくせく生きている者にとって、 ネオン灯りはない。私のように騒音と塵芥の東京で毎日を 山また山の里にこそ住んでい のように思える山間の里。でも、そこには弾けるような情 山も美しく空気もきれいであっても、 て、 しっかりと土の上に立 あまりにも文化とは無縁 人家はまばらで、 0

る日を楽しみに。 を忘れずに日本のために働いて下さいね。またお会いでき 波佐の皆さん、いついつまでも、学ぶことの素晴らしさ 一九八八年三月十九日

館 2 号

S 6 1.1 1.1 2 波佐文化協会

波佐寺小屋セミナーへ 随筆家佐々木久子氏を迎える 11月22日(±)PM7:00

波佐寺小屋セミナー第4回講座として、随筆家の佐々木久子氏を迎え、 「酒と旅と人生と」と題して開講します。

佐々木先生は、雑誌「酒」の編集長兼発行人として昭和60年6月まで の30年間にわたり日本全国の酒行脚をつづけ、ユニークな雑誌づくりを されてきました。現在は、同雑誌の企画監修人として参与。個性豊かなエ ッセイストとして、雑誌、新聞、テレビ、ラジオなどにその名を広く知ら され、日本ペンクラブ、旅のペンクラブ会員として、讃演、随筆、評論な どに活躍中。青郊連句会メンバーとして俳号を柳女という。主なる著書に 「あまからびん」=ミリオン書房、「酒(はる なつ あき ふゆ)」= 集英社文庫、「酒と旅と人生と」=集英社文庫など。広島市出身。

リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」は、家庭でのよきリーダー、 職場で、地域で、グループでのそれぞれの立場でリーダーシップを発揮で きる人づくりを目指し開講を続けております。

今回の議座は、ただ単に「酒」と人のかかわりのみではなく、佐々木先 生の30余年にわたる「酒」と「旅」を通じて得られた人生の喜怒哀楽を たくみな話術で私たちに語りかけていただきます。リーダーと「酒」は、 切っても切りはなせないものがあります。そのかかわりかたをこの講演で それぞれの立場でつがみ取っていただきたいものです。

波佐寺小屋セミナーごあんない

④渡頭「酒と旅と人生と」

講師· 随筆家、評論家(東京在住)

佐々木 久 子 氏

日時·昭和61年11月22日(土)PM7-9

会場・金城町波佐 波佐公民館

第5回講座開講日の変更

講師先生の都合により昭和62年1月17日(土)に変更します

広大・小笠原道雄先生を迎えて

第3回セミナー 「未来からの社会教育」を聴講

第3回セミナーは、10月11日(土)に広島大学教育学部教授・小笠 原道維先生を迎え「未来からの社会教育」=教育の明日を考える=と頭し て講演をいただいた。社会教育の本当の目指す方向は何か、現在の方向は 誤ってはいないか、親としての教育のあり方の指針と方向づけを与えられ たようである。村、町を育てる学力、生活に対する基礎学力を醸成しなが ら教育を受ける権利と強制のない、解放された社会教育のあり方について 数々の問題提議がなされた。

謹演後の質疑応答にも熱がこもり謹義室にも熱気がたぎった。

第三回講座・広大教育学部教授小笠原道雄先生の講義模様



昭和61年10月1日(水曜日)

養成講座開講

波佐文化協

第 3 号 6 1.1 2. 8 波佐文化協会

特別寄稿

「波佐寺小屋セミナー」発足によせて 金城中 小 川 孝

波佐小学校に2年間勤務させていただいて、地区の実態の一部はかいま見たと思っている。遠くは能海寛師の生まれ育ったところ・・・・・人々は、神仏をあがめ 人情はこまやかである。周囲を山に囲まれ、こじんまりとした水清き山村だが、 何んとなく温かく、心のやすらぎを覚えるところでもある。

その中で活動される波佐文化協会の存在はすばらしいと思う。波佐の文化の発 見と向上をめざし、また、新い産業の開発に、村おこしに奔走される姿をみて頭 が下がるのである。

波佐は、よきリーダーに恵まれていると、つくづく思う。協会等の出発、活動の継続と発展のためには、メンバーの同志の結束の横の人間関係が大切な要素である。また、リーダーの活躍にあたたかい支援と援助を与える多くの先輩がいてその活動に共鳴し、支える人が多くいるなど、縦の関係の充実が重要であろう。そしてリーダーがもつ情熱と責任感、正しい先見性が豊かになるとき、はじめて大きな力となって動きだすものだと考える。この三つの条件がそろうことはたい



第4回セミナー「酒と旅と人生と」の佐々木先生を囲んで記念撮影

へんむつかしいことだが、これを達成されたのが波佐だと思う。大島に住む人たち には悪いが、三原山が先日噴火した。地底にあった岩石とマグマがエネルギーを蓄 えて爆発した。熔岩を積み上げて一段と高い三原山が生まれたのである。

その姿と波佐文化協会の活動が重なりあうように思われるのである。それは「波 佐寺小屋セミナー」・・・・・もである。セミナーの企画、内容と運営は時機を得たも のであるし、講師の方もすばらしい先生方ばかりであるし、広く誇ることができる ものである。浜田の美川に住む私にとって、こんな会があったらと希望する。この セミナーの誕生はまさに垂涎ものである。これを真似るにしてもどこから手をつけ るか途方にくれてしまう。それほど、波佐地区は地方の最先端を着実に歩んでおら れ、感動を覚える。また、私を忘れずに誘っていただき参加を許されたことに深く 感謝を申し上げたい。

志を同じくして歩みはじめた50名の仲間の方々、どうか一層のご厚誼をお願い します。そして「波佐寺小屋セミナー」の充実、発展と新しいリーダーが次々と誕 生されることを祈って感想といたします。

第4回セミナー 盛会裡に終る

第4回セミナーは、11月22日(土)に評論家の佐々木久子先生を迎え「酒と 旅と人生と」と題して、講演をいただいた。当日は、三浦町長はじめ、受講生の家 族にも多数聴講いただいた。佐々木先生の30余年にわたる体験をまじえての追熱 した講演に受講者は満足した旨のアンケート結果を得て主催者も喜んでおります。

また、アンケート調査で、明年1月17日(土)午後8時からセミナー年始会を 行なうことといたしました。くわしくは、後ほどご案内いたしますが、皆様のスケ ジュールを開けておいて下さい。



第4回講座佐々木先生

波佐寺小屋セミナーごあんない

⑤ 演題「子どもの発達課題と家庭教育」 講師・広島大学教育学部助教授

今 泉 信 人 先生

日時 • 昭和62年1月17日(土)

PM6:00-8:00

会場・波 佐 公 民 館

日時が変更になっておりますので、よろ しくお願いします。

『子どもの発達課題と家庭教育』 【第五回波佐寺小屋セミナー 開講日=昭和六十二年一月十七日(土)

『現代の学校教育と家庭教育』

広島大学教育学部教授

岡

徳 雄

先生

開講日=昭和六十二年三月七日(土)

【第六回波佐寺小屋セミナー】

広島大学教育学部助教授 人 先生

は親子のきずなが大切だ。 るのではないか。 ているのか。 ればならないか。 先で伸びる子供を育てるために今、何を念頭に置かなけ 親として日頃の生活状況の見直しの必要があ 育てるべきものを育てよう。 子供たちの世界で何が起きようとし と講演された。 そのために

3

感化としつけ 父親と母親の役割 学校と家庭の役割分担

大きく三つに分けて具体例をあげて講演いただいた。

施した。 当日は 「セミナー年始会」を講演終了後になごやかに実



第5回セミナーの模様





セミナー年始会の模様

第7回セミナーの模様

波佐寺小型セミナー

波佐寺小屋セミナー



【広島大学現地ゼミ】

広島大学教育学部、付属図書館、 実施日=昭和六十二年八月十九日(水) (参加者) 十九名。 西条新キャンバス工学部大型強度試験室などを 医学部、文学部考古学



今後のコミュ

ニティ活動にプラスになった。

謝辞など一連の発表体験を交替で実施することとした。

受講者による三分間スピーチ、講師先生の紹

てコミュニテ

1

づくりについて示唆に富む提言を拝聴した。

ついて各地で実践されている事例を交え

ミュニティに

『コミュニテイづくりと教育』

広島大学教育学部助教授

岡

東

先生

【第七回波佐寺小屋セミナー】

開講日=昭和六十二年五月二十三日(土)

広島大学現地ゼミ参加者



第6回セミナーの模様

第 4 号 S 6 2.1.2 8 波佐女化協会

波佐文化協会 島根県新賀郡全城町



新春のごあいさつ 「心」をテーマとした古里づくりを

液佐文化協会長 隅田正三

新年おめでとうございます。昭和62年の年頭にあたり、つつしんで波佐寺 小屋セミナー受講者の皆様にごあいさつを申し上げます。

昨年7月、広島大学教育学部の温かいご指導と、セミナー受講者の皆様方の ご支援によりまして、リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」の開講ができ 2年目を迎えるに当りまして衷心より厚くお礼申し上げます。

波佐寺小屋セミナーの昭和62年は「心」をテーマとした「あいうえお、ふるさとづくり」を実践したいと考えております。先ず、明るい古里づくり、生き生きとした生活力を育てる、美しい自然を守る、円満な家庭を築く、思いやりの「心」を育てる。を基調とした、心のリーダー育成にも取り組みたいと思います。又、後半には、民活導入の学習もとり入れる考えでおります。

セミナーも回を重ねるたびに受講者も増加し、現在48名となりました。受 隣者相互の連帯と相互啓発で波佐寺小屋セミナー所期の目的に向ってまい進し ていただくことを期待いたします。

受講者の皆様のますますのご健勝をお祈りして新年のごあいさつといたします。

波佐寺小屋セミナーごあんない

- ⑥ 演 題 「現代の学校教育と家庭教育」
 - 講師・広島大学教育学部 教授 片 岡 徳 雄 先生
 - 日時·昭和62年3月7日(土)Pm7-9
 - 会場・金城町波佐、エクス和紙の館

(新語コーナー)

「モラトリアム」とは、青年が自己同一性を獲得するまでの題予期間という意味で 精神分析学のE・Hエリクソンが青年心理学に導入したことに始まる。 広大・今泉信人先生を迎えて

第5回セミナー「子どもの発達課題と家庭教育」 =子どもの健やかな成長を願って= を聴講

第5回セミナーは、1月17日(土)午後6時からエクス和紙の館で、広島大学教育学部助教授・今泉信人先生を迎え「子どもの発達課題と家庭教育」=子どもの健やかな成長を顧って=と願して講演をいただいた。先で伸びる子どもを育てるために今何を念頭に置かなければならないか、今、子どもたちの世界で何がおきようとしているか、親として日ごろの生活状況の見直の必要があるのではないか、育てるべきものを育てよう・・・・そのためには親子の心のきずなが大切である。などの問題提議がなされた。2時間の講演後、引続いてセミナー年始会がなごやかに催された。

第五回講座・広大教育学部助教授今泉信人先生の講義模様





セミナー年始会で大正琴の音色に

波佐寺小屋 だより

第 5 号 S 6 2.5.1 5 波佐文化協会

2年目を迎えた『波佐寺小屋セミナー』

リーダー養成講座「被佐寺小屋セミナー」は、広島大学教育学部のご支援をいただき昭和61年7月に開講して以来6回の講座を終え、2年目を迎えました。今年度は、残り6講座を下記の通り計画しております。第7回講座からは、受講者全員に交代でセミナーの進行をしていただきます。これは、第4回目講座の時にアンケート調査で3分間スピーチをしたいという多数のご賛同をいただいておりますので、今回から実施いたしますのでご協力ねがいます。順番は、受講者番号順とします。

なお、この夏には、広大現地ゼミも計画しておりますのでご期待ください。

【波佐寺小屋セミナー予定表】

第7回講座 5月23日(土)7:00pm~9:00pm、広大より

第8回講座 7月18日(土) " 広大より

第9回講座 8月22日(土) ″ 名古屋大より

第10回講座10月17日(土) " 広大より

第11回講座11月14日(土) " 広大より

第12回講座 1月16日(土)6:00pm~9:00pm、北里大より

閉講式・記念講演 3月20日(日) 広大教育学部長

この外に、波佐文化協会が主催する行事にも参加していただきます。

波佐寺小屋セミナーごあんない

⑦ 演題「コミュニティづくりと教育」

講師·広島大学教育学部

助教授 岡 東 壽 隆 先生

日時·昭和62年5月23日(土)7-9pm

会場・金城町波佐、エクス和紙の館

広大・片岡徳雄先生を迎えて

第6回セミナー =現代の学校教育と家庭教育= を聴講

第6回セミナーは、3月7日(土)午後7時からエクス和紙の館で、広島大学教育学部教授・片岡徳雄先生を迎えて「現代の学校教育と家庭教育」と題して、①学校と家庭の役割分担 ②父親と母親の役割 ③感化としつけ、と大きく3つに分けて具体例をあげながらご講演をいただいた。

* * * * *

第六回講座・広大教育学部教授片岡徳雄先生の講義模様



液佐文化協会 1 5 周年記念行事 映画の夕べ『こんにちはハーネス』ほか

- とき昭和62年6月13日(土) 午後7時30分~10時
- ところ 金城町波佐・エクス和紙の館

入場料は無料です。皆様のご支援によりまして、お蔭様で15周年 を迎えました。平素のご愛顧に感謝いたし映画の夕べを催します。小 学生から成人一般までを対象にした映画ですのでご家族お誘い合わせ てお出かけ下さい。

【講師先生のコメント】

公

公 公

公

昭和の松下村塾たらんことを期待する

波佐寺小屋セミナーに寄せる~

広島大学教育学部教授 吉森 護 先生

生き抜く心がまえ等について拝聴した。 問題提議がなされた。これらに対応して、 しいタイ 価値感の多様化などに影響を及ぼす、新しい社会の影や新 しい社会(情報化社会)の到来によって情報の多様化 プの人間像、 イメージがつくられていることへの 新しい社会を。



第8回セミナーの模様

多くの人が集積し商業が栄えていた大阪でも、さらに、都 が、幕府のある行政の中心地である江戸でも、また、当時 な塾である。あれだけ多くの国家的指導者を送り出した地

何といっても、指

松陰は書簡

にその辺の事情を、 もって受け入れた有志の若者と彼らをそこへ押し出した大 は興味深い。そのせいこうと影響力は、 として長い歴史と文化をもっていた京都でもなかったこと 導者吉田松陰によるところが大きいが、その教えを情熱を 人たちの力があったことを忘れてはならない。 「村中◆る振起の勢相成申し候」とい

あり、祖先の人々の歴史がひそんでい ても記している。それに、 松本村には、大川があり、 山が

ギーガ授受作用を通して燃え上がった時、 本が間近にある。これらの指導者と地元の人たちのエネル 宗教家でありチベットの探検家、能海寛師や新劇の父と称 となることは夢ではない。 される作家、島村抱月といった誇るべき偉大なる人物の手 でも学びたいという人の群れがある。 金城町の波佐にも、 町の中を大川が流れている。それに、近世史には 熱心なリーダーがいて、金を出して また、 現在の松下村塾 緑豊かな山に

る。いまはそんな時かもしれない。 起の勢」を見たいものである。 雑踏を避け、 如何なる時ぞや」、語り合わねばならない。金城町に「振 今も生きていると思う。否、今だからこそ、 プリ浸かっている地より、辺地より輩出するという真理は 社会の革新者、 でいる。竹下登総理も「ふるさと創生」を説いてい 山川の自然豊かな地にあって、 文化の創造者は、既成の社会・文化にド 私達も何時でも馳せ参じる 都会の喧騒と 「今、天下は

知ってなおである。 ト田と継続されることを期待してやまない。 終了するようであるが、 「波佐寺小屋セミナー は所期の 今後、パー そのご苦労を プログラムを トロ、 18

一九八八年二月二十五日

【第九回波佐寺小屋セミナー 開講日=昭和六十二年八月二十二日(土)

『東洋哲学と能海寛』

名古屋大学教育学部教授 山

な心とチベットを正しく理解していた人はいないと前置き 省の丹喝爾はダライ・ラ 能海寛の人柄について触れられ、 「明治三十二年当時、 金沙江の巴塘 他の探検家に比べ純粋 (パタン)や青海

海寛の業績について更に るさとの生んだ偉大な能 した。このセミナーでふ などについて詳しく拝聴 チベット仏教文化の発達 とになる。」と話され ことから、能海寛は何回 詳しく学んだ。 立やチベット文字の創設 マ法王の直轄地であった もチベットへ入国したこ また、東洋哲学につい チベット国家の成 た。

ては、

能海寛師顕彰碑にて

山陰の一地

久坂玄端

方、松本村(現在の萩市)にあって、高杉晋作、

ご存じの通り、松下村塾は江戸時代の末期、

塾」を思った。

波佐寺小屋セミナーに講師として招かれ、

私は

「松下村

森

護

をはじめとする多くの明治維新の獅子たちを輩出した小さ

第 6 号

S 6 2.7.1 5

波佐文化協会 島根県耶賀郡全城町

広島大学現地ゼミの日程決まる

「 液佐寺小屋セミナー 」の課外活動の一環として『広島現地ゼミ』を下記のとおり 実施いたしますので受講者の皆さんこぞってご出席くださいませ。

広島大学では、山本教育学部長始め佐々木正治先生のご案内で学内や医学部資料館・総合情報処理センターなどの見学、西条キャンパスでは工学部などの見学を予定しております。せっかくの機会ですので多数のご参加をお願い致します。

iid

- 1、日 時 昭和62年8月19日(水)
- 2、集合時間 午前7時·波佐公民館前(時間厳守)
- 3、コース等 波佐-広島大学-西条キャンパス-波佐
- 4、参加費用 1500円(一部負担金)

波佐寺小屋セミナーごあんない

- ② 演題「新しい社会における人間の生き方を求めて」
 - 講師 広島大学教育学部

教授 吉 森 護 先生

日時 昭和62年7月18日(土)7-9pm

会場 金城町波佐、エクス和紙の館

- ⑨ 演題「東洋哲学と能海寛」
 - 講師 名古屋大学教育学部

教授 山 口 瑞 鳳 先生

日時 昭和62年8月22日(土)7-9pm

会場 金城町波佐、エクス和紙の館

広大・岡東壽降先生を迎えて

第7回セミナー『コミュニティづくりと教育』を聴講

第7回セミナーは、5月23日(土)午後7時からエクス和紙の館で、広島大学教育学部助教授・岡東壽隆先生を迎えて「コミュニティづくりと教育」と題してご講演をいただいた。この講演の中で特にコミュニティづくりに示唆に富むご提言や各地での実践されている様子等を拝聴し、これからのコミュニティ活動にプラスとなった。

なお、今回から、受講者による3分間スピーチや講師先生の紹介、謝辞など一連の 発表体験を交代で経験実施いたすことでスタートしております。第8回セミナーから は、講演終了後直ちに行います。次回発表者のお方はよろしくお願いいたします。

第六回講座・広大教育学部助教授岡東壽隆先生の講義









佐々岡常喜さん



中田敏幸さん

男 7 号 S 6 2. 8.2 5 波佐文化協会

『現地ゼミ』で広島大学を訪問する

リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」の課外活動の一環として実施した『広島 現地ゼミ』は、8月19日(水)に広島大学の各学部や関係施設の見学にセミナー受 講者19名が参加して、これを実施しました。

当日は、午前7時に波佐公民館を出発し、広島大学正門に9時20分到着、全コースをご案内いただく、教育学部の井上豊久助手と合流し、一路南区霞町の広島大学医学部を訪問、医学部資料館で貴重な医学の歴史資料や学部の沿革等を見学して、医学の発展に関する認識を新にした。その後、学部の屋上から医学部の配置等の説明を受けた。

千田町の広島大学の本部に帰り、広島大学附属図書館では、閲覧課の赤坂係長から 概況説明やレファレンス・サービス(参考調査)のうけ方等の指導を受けた後、特別 文献室などを見学した。その後、文学部を訪問し、考古学研究室の中越利夫助手より 、国内外の考古学資料の説明を受けた。

正午前、山本多喜司教育学部長、小笠原道雄教授、岡東壽隆助教授の歓迎を受け、 会議室で懇談後、学生食堂で全員揃って昼食をとった。久しぶりの再会で、親しく会 食ができた。

午後1時過ぎ本部を出発し、西条新キャンパスのある東広島市西条町の広島大学工



広島大学学生食堂前で山本教育学部長を囲んで 🕆

学部を訪問し、吉田典 可工学部長より概要説 明を受けた後、屋上か らキヤンパス全景を一 望した。キヤンパスは 、280ha(85万 坪)あり、いち早く移 転した工学部に続き、 68年度には、統合移 転が完了する予定で、 将来は15万人程度の 大型強度試験室にて

学園都市が想定される という。

大型強度試験室では 、世界最大の3000 t圧縮・1500t引 張大型試験機を見学し た。この機械で、構造 物の安全性が実験によ り確認されるという。

船舶・海洋工学の試 験水槽では、高木幹雄

教授(浜田市出身)より、曳航水槽、造波水槽等で実験をおりまぜ説明を受けた。

平素は、見学出来ない諸施設を山本学部長のお計らいで見学できたことに感謝しな がら、一日中、ご案内でお世話になった井上さんに千田町の大学本部でお別れして一 路帰途についた。

第8回セミナーは、広大・吉森 護先生を迎えて実施 『新しい社会における人間の生き方を求めて』

第8回セミナーは、7月18日(土)午後7時からエクス和紙の館で、広島大学教育学部教授・吉森護先生を迎えて「新しい社会における人間の生き方を求めて」と題して、ご講演いただいた。

新しい社会(情報化社会)の到来によって、情報の多様化、価値観の多様化などに 影響を及ぼす、新しい社会の影や新しいタイプの人間像、イメージがつくられている

ことへの問題提議が なされ、これに対応 して、新しい社会を 生き抜く心がまえ等 について講義を拝聴 した。

しかない』人生 から「もある』人生 への変革が大事と締 め括られた。



第八回講座・広大教育学部教授吉森護先生の講義の模様

4

第 8 号 S 6 2. 9.2 5 波佐文化協会 ^{島根県部質都会城町}

名古屋大・山口瑞鳳先生を迎えて

第9回セミナー『能海寛と東洋哲学』を聴講

- 講演の要旨-

第9回セミナーは、8月22日(土)午後7時からエクス和紙の館で、名古屋大学 文学部教授・山口瑞興先生を迎えて「能海寛と東洋哲学」と題してご講演をいただい た。山口先生は、日本におけるチベット学の第一線でご活躍中で、先頃「チベット上 巻」を東京大学出版会より、ご出版され、この著書において、「入蔵した日本人」の 項に能海寛のことも詳細に報告されております。

このたびのセミナー講演の中で、能海寛の人柄に触れられ、他の揉険家に比べ純粋な心とチベットを正しく理解していた人は無いと前置きをされ、明治32年に金沙江のパタン、明治33年に青海省の丹鳴欄に足を踏み入れているが、その当時は、パタンや丹鳴欄はそれぞれダライラマの直轄地であったことから、能海寛は、何回もチベットに入国したことになると、新事実を発表された。

また、東洋哲学については、チベット国家の成立やチベット文字の創設、チベット 仏教文化の発達などについて詳しく講義がなされた。

このセミナーで、ふるさと金城の生んだ偉大な傑人である能海寛の業績について、 更に詳しく学ぶことができた。

- 波佐寺小屋セミナーごあんない=
- (10) 演題「国際化時代の日本の教育」 議師 広島大学教育学部

教授 二 宮 皓 先生

日時 昭和62年10月17日(土)7-9pm

会場 金城町液佐・エクス和紙の館





第9回講座・名古屋大学教授山口瑞興先生の講義の模様

3分間スピーチに挑戦した皆さん

↑「郷土の傑人顕彰板」より転載



斎藤寿栄延さん 槙田浪子さん 隅田静子さん 植田修身さん 加納美代子さん

第 9 号

S 6 2.1 1.1 0 波佐文化協会 ^{島根県部貿都全域町}

広島大学・二宮皓先生を迎えて

第10回セミナー『国際化時代の日本の教育』を聴講

第10回セミナーは、10月17日(土)午後7時からエクス和紙の館で、広島大学教育学部助教授・二宮皓先生を迎えて「国際化時代の日本の教育」と題して、ご講演をいただいた。二宮先生は、比較教育学(外国の教育の研究)を専攻され、「生徒指導観の革新」、「世界の学校」、その他諸外国の教育に関する書物論文など多数。 鳥取県のご出身。

このたびのセミナー講演で二宮先生は、①オリエント的教育について②国際化とは…、を中心に講義されました。特に、「国際化」とは、①「もの」の移動(食料品など)②「人」の移動(海外に出る日本人、ビジネス観光、留学で日本へ来る外国人)③「こと」の移動(科学技術、同時受容など)等のことをいうと、具体的な事例などを

おりまぜお話しされました。



☆ 広大・二宮先生の講義の模様

=波佐寺小屋セミナーごあんない=

⑩ 演題『知識の教育と心の育ち』講師 広島大学教育学部教授 鑢 幹八郎先生

日時 昭和62年11月14日(土)7-9Pm 会場 金城町波佐 エクス和紙の館

『三分間スピーチ』順調に進む

リーダー養成講座の名前にふさわしく、リーダーとしての資質の向上を計るべく、 意見の発表の概会を設けて体験して自信を付けるために、第7回講座から「三分間ス



ビーチ」の時間を設けておりますが、各自の個性を活かしたス ビーチを発表載き、本来の目的にそって、回数を重ねているこ とを主催者として嬉しくおもっております。

「三分間スピーチ」の外にも、講師先生の紹介、講師先生への 謝辞等も受講者の皆さんに交替で担当して戴いておりますが、 これも、体験学習の一環として、それなりの効果があがるもの と考えておりますので、今後もご支援を戴きたいと存じます。

小金仍子さん (腹話術でスピーチ)



松川正幸さん 松川重幸さん 前田祥二さん 酒井憲正さん 能海 登さん

=お知らせ=

- 第11回セミナー講師・鑪幹八郎先生は、熊本県生まれ、京都大学大学院博士 課程修了。教育学博士。ニューヨークのホワイト精神分析研究所で精神分析の訓練を受ける。大阪教育大学助教授を経て、昭和46年から広島大学教育学部で臨床心理学、カウンセリングの研究、指導に従事。現在、広島大学教育学部教授。
- 「液佐寺小屋セミナー」も、残りの回数も少なくなりました。来春の閉講式には、セミナー受講者の皆さんへ「セミナー修了証」(エクス和紙の館で漉いた紙を用います。)の外に、皆動賞、精動賞(8回以上の受講者を対象)を授与することにしております。残り僅かですから皆動を目指して頑張ってください。
- セミナー最終回の明年1月16日(土)には、地元出身の古和久幸先生(北里大学東病院副医院長・北里大学教授)を迎えて『美しく老いるとは』=高齢化社会を迎えるにあたって=と題して、ご講演いただく予定です。
- 昭和63年1月16日(土)のセミナーの後「セミナー年始会」を行うよう計画していますので楽しみにしていて下さい。

_{波佐寺小屋} だより

第10号

S 6 3. 1. 8 波佐文化協会 ^{島根県都賀都会城町}

新年のごあいさつ

波佐文化協会長 匯 田 正 三

波佐寺小屋セミナー受講者の皆さん、明けましておめでとうございます。輝かしい 新年を迎え、決意を新たにされていることと思います。

昭和61年7月、広島大学教育学部の温かいご指導とご支援をいただき、リーダー 養成講座「液佐寺小屋セミナー」を2年継続事業として実施して参りましたが、この 春、3月には閉講式を迎えることになります。歳月の過ぎるは早いものです。寺小屋 セミナーをご支援いただいている受講者の皆さんに衷心より厚くお礼申し上げます。

このセミナーは、「心」をテーマとした「あいうえお、ふるさとづくり」を基調と した心のリーダー育成と「3分間スピーチ」による相互啓発を主服としております。

来る、1月16日には、第12回目の講座の後、引き続きセミナー年始会を実施して受講者相互の連帯と親睦を図りたく計画しておりますので全員のご出席をおねがい します。

ふるさとの輝ける未来を拓くために、人間性を磨き、感性を高めるよう、今年も頑 張ろうではありませんか。

受講者の皆様のますますのご健勝をお祈りして新年のごあいさつといたします。

=波佐寺小屋セミナーごあんない=

◎ 演題『美しく老いるとは』

- 高齢化社会を迎えるにあたって=

講師 北里大学東病院副院長

北里大学教授•古和久幸先生

日時 昭和63年1月16日(土)6-8Pm

会場 金城町波佐・エクス和紙の館

広島大学・鑑幹八郎先生を迎えて

第11回セミナー『知識の教育と心の育ち』を聴講

第11回セミナーは、11月14日(土)午後7時からエクス和紙の館で、広島大 学教育学部教授・鑪幹八郎先生を迎えて「知識の教育と心の育ち」と題して、ご講演 いただいた。鑪先生は、臨床心理学、カウンセリングの研究に専念される傍ら、指導 にも従事なされております。このたびのセミナーの講演で鑢先生は、テクノロジーや

技術や文化がいくら進んでも、一方ではぬけているものができる、それは「心」の問題だと提言された。「心と体」「体と頭」のバランスが段々くずれてきた。しかも、大人の問題として4世代をのことを考えて「感じる心」や「感受性」を育てなければならないと講義された。



〒 広島大学・鱸先生の講義の模様

=お知らせ=

- 1月16日(土)午後6時に開講します、第12回セミナーは、液佐地区ご出身の古和久幸先生を迎えて、これから将来に予測される高齢社会にむかっての問題点の把握と対応策を考えるための意義ある講演でありますので、今回はセミナー受講者のご家族のお方は、どなたでもご参加いただいでもよろしいので、ご一緒に受講して下さい。講演終了後には記念写真を撮ります。ただし、受講者以外は、セミナー年始会には参加できません。
- ⊕ セミナー年始会のご案内は、別途の文書でご案内していますので、お見落としのないようご注意ください。また、プレゼント交換も行いますのでご協力願います。

3分間スピーチに挑戦した皆さん



能海俊子さん 槙田郁夫さん佐々岡良子さん飯田忠子さん 小川孝さん 横山隆子さん



第 11 号 島根県那賀郡全城町

北里大学東病院副院長・古和久幸先生を迎えて

第12回セミナー『美しく老いるとは』を聴講

第12回セミナーは、1月16日(土)午後6時からエクス和紙の館で、北里大学 東病院副院長・古和久幸先生を迎えて「美しく老いるとは」=高齢化社会を迎えるに あたって=と顕して、ご講演をいただいた。

古和先生は、昭和6年5月に金城町波佐に生まれ、慶応義塾大学医学部を卒業後ア メリカ・メリーランド州ボルチモア、ジョンス・ホプキンス大学病院にて神経内科学 を3年間研修ののち帰国。東邦大学医学部内科講師、北里大学医学部内科助教授、同 学部内科教授、61年4月から北里大学東病院副院長に就任され、現在に至る。神経 内科学、老年病学を専攻されています。

このたびのセミナーで古和先生は、1、統計から見た現状の把握。人生80年時代 の高齢化の問題点として家族制度の変革、住宅事情などについて……。2、「老いる 」とは何か? を①基本的老化過程、②老化による身体臓器の形態変化、③生理機能 の老化に分けて、など医学的な立場から話された。 3、老年病の分類。では、①基本 的老化過程そのものによるもの②加令によるもの③高齢者の死因 (肺炎、事故)など について。4、美しく老いるとは。①身体的観点から②精神心理面より、に分けて具 体例を挙げながら詳しく講演された。



□講演の後 古和先生を囲んで □講演される古和先生



セミナ 年始会感会裡に終わる

第12回セミナ 講演の後、引き続いて古和先生 を囲んでセミナ 年始会を盛大に開催した。 に続く、2回目の年始会で、隅田文化協会長のあい さつの後、古和先生の来省祝辞を載き、槙田初代文 化協会長の乾杯の音頭で開宴した。加納昭則さんの 司会で、小金昭雄さんの祝い唄、沖田トシェさんの 大正琴の演奏でしカチューシャの明しを全員で合唱 するなど賑やかな年始会の親睦が図られた。

プレゼント交換では、各自の持ち寄ったプレゼン トとメッセージの披露が行われ終日楽しい年始会で 幕をとじた。

原稿募集のお知らせ

リーダー養成講座「被佐寺小屋セミナー」の受講者の皆さんに、「被佐寺小屋セミ ナー」の終了に伴う記念誌原稿の募集についてご協力をお願いします。

波佐文化協会は、昭和47年8月に設立して、15年の歳月が過ぎました。この1 5年間は生涯教育、特に成人教育に力を入れて参りましたが、このほど、『ふるさと カルチヤー15年』=生産教育の視点にたっての成人教育の実践=と題して、記念誌 を発刊します。この記念誌の中で「波佐寺小屋セミナー」事業も含めて掲載しますの で、受講者の皆さん全員に原稿を書いて戴くようお願いします。

原稿募集要綱

- 1、原稿内容は、セミナーを受講した動機、受講して感じたこと、修了して思うこ となど自由にお書きください。
- 2、原稿は、400字詰(横書き)で2枚程度を基準とします。
- 3、原稿の送り先、連絡先は、波佐公民館内波佐文化協会「記念誌編集委員会」あ てとします。
- 4、原稿締切り日は、2月末日とします。

波佐寺小屋セミナー閉講式のご案内

日時 昭和63年3月20日(日)

会場 金城町液佐・エクス和紙の館

◎閉講式(午後1時から)修了証授与

○記念講演(午後3時から)

『ライフサイクルと生涯学習』

広島大学教育学部長

山 本 多喜司 先生

「今一つの仏教」

Ш

改革の仕上げの立場を示した、文字通りの奥義書であ

別の感慨をもたされたのであった。

この書物はツォンカパが最難題のインド

タントラ仏教

り、

の秘訳『五次第照明燈』の大冊を見つけて、

次のように特

その版がまた、遠い西チベットのプンツォクリン寺のもの その昔どうしてこれが手に入ったものかもゆかしかったが、

る雰囲気の中に置かれていたに違いない。残念至極なこと ように仏像を見せて木戸銭をとるだけの寺院も多少は臆す ただ、能海寛だけは例外であった。彼が生きて帰ってチベッ に入って仏教に接しようとした人達もそのお多分に洩れず、 として、尊大な説明しかしていない。前世紀末にチベット も、元来の仏教が志した方向と比較されなければならない。 トに伝えられていたインド仏教を紹介していたら、 で、理由もなく日本仏教学仏教の正統で他より優れている しかし、明治以来の日本の仏教学は信仰の立場をひきこん である。 が国の仏教は、その傾向がどのように評価されようと

たばかりか、将来されていた経典の中に、チベット仏教の れた和歌で金沙江の河岸に涙を呑んだ彼の姿が思いやられ ろう。ただ、私の方は、能海寛の故郷を見て、石碑に刻ま た方には却って分かりにくい迷惑なものになっていたであ 改革大成者ツォンカパによる『秘密集会(しタラス)タントラ』

ら講演を頼まれたので、心にはやるところがあって聴かれ日頃このように思っていたところに「波佐文化協会」か 今日の

【第十回波佐寺小屋セミナー】

『国際化時代の日本の教育』 開講日=昭和六十二年十月十七日(土)

広島大学教育学部教授 宮 皓 先生

- オリエント的教育について
- ② 国際化とは……
- 「もの」の移動(食料品など)
- (2) 留学で日本へ来る外国人) 「人」の移動(海外に出る日本人、ビジネス観光、
- (3) 「こと」の移動(科学技術、 同時受容など

新」、「世界の学校」、そ 著書論文など多数。鳥取県 の他諸外国の教育に関する (外国の教育の研究)を専 二宮先生は、比較教育学 「生徒指導観の革



第10回セミナーの模様

東京に帰ると、能海寛の幻にとりつかれたような思いで 点であったが十七世紀半ばに改宗させられたのであった。 であるのが気になった。この寺はチベット如来蔵思想の拠 お蔭であろう。 わけであるが、成功しておれば、昔風に言うと、能海寛の 国の仏教と全く異なった「今一つの仏教」の解説が出来た たので上梓が半年も遅れてしまった。こうして、日本、中 に読んだりして『チベット』下巻の仏教の部分を書き改め 『五次第燈明』も含めて重要な論書を読み返したり、新た 一九八八年二月二十八日

公 公 公 公 ¥

【第十一回波佐寺小屋セミナー】 知識の教育と心の育ち』 開講日=昭和六十二年十一月十四日(土)

広島大学教育学部教授 鑪 幹八郎

えて「感じる心」や「感受性」を育てなければならない。 言された。「心と体」「体と頭」のバランスが段々くずれ と講演された。 てきた。しかも、大人の問題として、四世代後のことを考 抜けているものが出来る。それは、「心」の問題だ。と提 テクノロジーや技術や文化がいくら進んでも、一方では



セミナー年始会記念撮影

指導に従事。 カウンセリングの研究、 学教育学部で臨床心理学、 昭和四十六年から広島大 教育大学助教授を経て、 析の訓練を受ける。大阪 精神分析研究所で精神分 ニューヨークのホワイト 過程修了。教育学博士。 れ。京都大学大学院博士 鑪先生は、熊本県生ま

『美しく老いるとは』 【第十二回波佐寺小屋セミナー】 開講日=昭和六十三年一月十六日(土)

北里大学東病院副医院長 古 和 久 幸 先生

先生

統計から見た現状の把握

人生八十年時代の高齢化の問題点

家族制度の変革

(2) 住宅事情

「老いる」とは何か?

(2) (1) 基本的老化過程 老化による身体臓器の形態変化

(3) 生理機能の老化

美しく老いる

(1) 身体的観点

精神・心理面から

0 年始会を開催した。 古和先生を囲んでセミナー 「セミナー年始会」の開催



第12回セミナーの模様

2 高度情報社会(管理社会化すると人権が犯されてくる)

3 高度技術社会

・マイクロコンピューター

国際社会 ・テクノロジ

5

11

い死に方をするために

公

公 公

公 公 4

(5) 高齢化社会

家庭=思春期の子供の教育(幼児期に参加していない 父親の影響)

◇「波佐寺小屋セミナー」閉講式

学校=知的能力にウエイトをはかりすぎる

となった 新しいラインに適応する能力が問われる時代 人格的側面を見直すことが必要(人間の評価)

地域社会=オープンになると、 都市化現象 なり伝統、文化の維持がむづかしくなる。 人の出入りが激しく

3、教育と学習(教師が教えることによって自らが学ぶと いう一体的なものがある)

1 生涯教育

2 生涯学習

ミドル・クライシス (中年期危機)

1 職業上の問題

家庭内の問題

ウツ病的性格 会社人間

対策=「開き直り」の心をもつ。柔軟な心。 ルスの面で必要。 メンタル

> 【波佐寺小屋セミナー閉講式記念講演】 『ライフ・サイクルと生涯学習』 1 1 2 開催日=昭和六十三年三月二十日(日) 時代の潮流 人生八十年への移行(死等で鑑)→生涯教育 ライフ・ステージ 発達課題(社会的発達理論) 成熟社会 ・子供の育成期(成人前期、成人中期・春のぞ) 人生周期 熟年・実年期(成人後期・護者よしいの程) 成長発達期(胎児期、乳幼児期、児童期、青年期) 平穏期(老年期・ありあまる館をいかに生かすか) 指導力 統合能力 社会的対人能力 問題解決能力 人生観 (人生哲学) 広島大学教育学部長 Ш 多喜司

講座経過報告 互 はじめのことば 式 次 第

互 おわりのことば 町民歌斉唱 祝電祝詞披露 波佐文化協会長式辞 皆勤賞・精勤賞授与 修了証書授与 感謝状贈呈 来賓祝辞



山本先生へ感謝状贈呈



リーダー養成講座『波佐寺小屋セミナー』 閉講式 1988年3月20日

〔皆勤賞〕沖田トシエ、槙田修身、田中タキヨ、 能海俊子、隅田正三、 佐々岡常喜。 上山勝子、 岡本正儀、 飯田忠子、 槙田郁夫、

〔精勤賞〕相木正男、 青木覚、松川重幸、上山忠治。 上田克紀、中田敏幸、酒井憲正、 納昭則、槙田浪子、中谷忠夫、隅田静子、 松川正幸、三浦哲夫、美川栄、隅田哲夫、前田寛、加 栄延、小金仍子、小金昭雄、佐々岡良子、 能海登、山崎義高、小川孝、 岡本利道、前田祥二、 芹原博正、 加納美代子、 斎藤壽





セミナー閉講式(S63.3)

【文化協会長式辞】

『波佐寺小屋セミナー』の閉講にあたって

せていただきます。 あたり、主催者といたしまして、一言お礼の言葉を述べさ 城町教育委員会西田教育長様をお迎えして盛大に、リーダ 養成講座「波佐寺小屋セミナー 本日ここに、広島大学教育学部山元学部長様、並びに金 」の閉講式を挙行するに

る運びとなりました。これも、偏に広島大学教育学部の全 講座にわたり、開講いたして参りましたが、 からこそでございます。 面的なご支援と、受講者の熱意の両輪がうまく噛み合っ 昭和六十一年七月十九日の第一回講座から二年間 本日、 閉講す で十二 た

-195 -

のです。 におき益々ご精進されんことを希望いたします。 受講し、人生八十年代に向かっての、生涯学習をいた から、これからは、生涯にわたって学ぶと言う習慣を念頭 いわば基礎的な学習をこの二年間でしたわけでござい おりますように、ワンチャンスを活かす人生を送りた 歳月の過ぎるのは早く、あっという間です。 縁あって四十七名の受講生は、同じ目的をもって 常々 ます す、 いも

講座という名前のとおり、 寺小屋セミナーでは、目的としておりますリーダ IJ ーダー •シップを発揮 できる 養成

環境づくりのため、受講者全員に発表してい りと親睦を図られる機会づくりをしてきたつもりでござい ただく場づく

この記念誌に掲載いたしますので、ご協力の程をお願い 佐文化協会十五周年記念誌の発行を予定しておりますので 想文をお書きいただくようにお願いいたしております。 屋セミナー」が修了しました。今、皆さん方にセミナー 反省いたしております。ともあれ、今回で、全ての「寺 しかしながら、充分には、ご期待にそえなかったことを 波 感

勤めいただいた先生方、並びに受講者各位のご健康を祈念 ました広島大学教育学部のご発展と、セミナー 最後になりましたが、波佐寺小屋セミナーでお世話に しまして式辞といたします。 講師をお な

一九八八年三月二十日

波佐文化協会長 隅 田 正 Ξ

公 公 ☆

辞

地域のリーダー養成講座「寺小屋セミナー」がめでたく閉 と思います。今日ここに足掛け三年にも及びますところの 講の運びとなりました。一言ご挨拶を申し上げたい 三寒四温と申しますが、今日は、その中では暖か と想 41 方だ

まず、この寺小屋セミナー

という言葉をおうかがいした

先進的なといいますか進んだことばをしっつけられたとこ 的な存在でありまして、私ども有り難く想っ その他社会教育活動の先進地であり、あるいは、 に、当波佐地区は公民館活動、あるいは、文化財保護活動 を申し上げたいと想います。常々申し上げておりますよう ぼる講座を開かれたそうでありまして、先程修了証書、皆 部の暖かいご指導とご援助をいただきながら十三回にもの まだ、災害の傷痕も癒えない六十一年から広島大学教育学 ろに生涯学習の源をみたような気がしたわけでございます。 今頃で流行の、デトロ的な言葉の中に「セミナー」という ときに、「寺小屋」という、どちらかというと古典的 明治の傑人能海寛を産んだこの波佐の地でありまして、 精勤賞をお受けになりました方々には心からお祝い あるいは文化協会の会長さん、 ております。 更には公民 ーダー

【一般公開フォーラム】

『観光&長寿福祉』

開催日=平成三年三月二十四日(日)

会 場=金城町波佐・エクス和紙の館

主催者=波佐文化協会

金城町社会福祉協議会

公 公 ☆ 公 公

上げました。 ラムでは、今日的課題「観光&長寿福祉」をテーマに取り 化率(平成二年七月調査)は金城町で二一・二四%。 五・九一才、女性八一・七七才)で、心配されている高齢 波佐地区では二四・四%に到達している。今回のフォー 一世紀まであと九年。人生八十年代の到来(男性七

消するために設立した民間文化団体です。 の社会情勢と、過疎、出稼ぎ、高齢化の三つの問題点を解 昭和四十七年八月一日産声をあげた波佐文化協会は当時

長期ビジョン(人材育成)を目的に、生涯学習を通した

リレー・トーク①

『長寿社会に対応する生涯学習と町おこし』

早稲田大学教授 山本 多喜司 先生

 $\vec{=}$ 生涯学習のすすめ

町おこしのパイオニア波佐文化協会

 \equiv ライフステージと生涯学習の課題(ラママワマシン)

兀 人生にくだり坂はない(タオリティ・オフ・ライフ)

五. 新しい地域文化の創造と町おこし

燃えろリーダー(一人一後ろながリーダー)

七六 きれいな水と山の緑、輝く人と町でして太陽。

までも 歴史と文化の香り高い、住みよい波佐の町をいつ

リレー・トーク②

『長寿の世紀を迎えるに当たって』

北里大学東病院副医院長 十口 和 久 幸 先生

- 高齢化社会の構造
- (2) (1) わが国の現状
- 高齢化社会の現状
- (3)高齢による心身上の変化

塾』一般公開フォーラムの開催に当たり、ふるさとカルチャ 町づくりを模索して今日を迎えております。今回『なわて 年間の活動内容を掲載) 提案書」を作成しましたので、ご参照下さい。(以下二十 『なわて塾』専門部会で検討し取りまとめた資料「企画

◇波佐成人学級の開設(緊四+右+月~緊弄右三月)

◇季刊「なわて」誌の発行(顆五十年貨~瞿)

◇リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」の開設

(昭和六十一年七月~昭和六十三年三月)

◇ふるさとカルチャー「なわて塾」の開設

これらを通して、一貫した生涯学習体制で今日に及んで ◇講演会、映画会、座談会、フォーラムなどの開催

くお願いします。 やしております。今後ともご支援をいただきますよう宜し おります。我々は、生涯学習を通した町づくりに意欲を燃

平成三年三月二十四日

波佐文化協会長 隅 田

正

Ξ

公 公 公 公

医療と福祉

- (2) (1) 医学と医療
- 「福祉」と「慈善」
- (3) 長寿社会への設計図
- 「長寿福祉の里」へのプロロー グ
- (1) 送れる施設」 「心身にハンディを持ちながら充実した生活を
- 「生きがい」を見いだす生涯研修
- (3) (2) 「福祉の心」を育てる

リレー・トーク③

『長寿社会に対応する金城の観光』

島根大学法文学部教授 内 正 ф 先生

長寿社会への対応

- 高齢者ニーズに対応する観光開発
- (2) 高齢者による観光地づくり
- 金城町の観光
- (2) 金城の観光資源

観光地としての立地条件

地域ぐるみの体制はできないか 資源は開発整備されているか

- どのような観光地をめざすのか
- 金城カントリークラブ、美又温泉を中心に
- (2) 運動公園を中心に
- (3) エクス和紙の館を中心に
- 島村抱月と能海寛
- (5) (4) 千年比丘古墳の発掘
- 町民が誇りの持てるもの「煙町でり」



フォーラムに迎えた講師陣 (左から佐々木・内藤・古和・山本の各先生)

次のとおりです。この中から実施実行可能なものから手掛 けていくこととなった。 ふるさとカルチャー 『なわて塾』専門部会別集約結果は

【自然環境部会】

- 波佐川の自然環境を活かした観光資源の活用
- 鉱泉学から見た泉源探査(地温探査法)の実施
- 水資源の活用・波佐川の自然愛護とヤマメの渓流づり
- 周布川の環境・水質の保全を考える(名水のPR)
- 伝統的食文化の継承
- 自然観察(サイクリング)と中世城郭の学習(山岳OL)
- 歴史公園として整備活用を図る 史跡『千年比丘古墳』と波佐一本松城跡を連携した

【特産開発部会】

- 農林水産物から加工品、 (頭脳提携=アイデアの募集) 土産品の開発
- 地域にマッチした特産品・土産品の創作 有人特産売り場、 特産物を用いた食事処の誘致
- 特産品の一体化 (中身とパッケージ)の開発
- 観光と農林業の一体化を考える
- ふるさと小包の開発

【観光開発部会】

- 潜在的観光資源の活用とPR (誰もが案内できる学習体制づくり)
- 観光青写真づくり
- サイクリング・ター
- ミナルなどの誘致

セカンド・ハウスとしての「ログ・ハウス村」

の建設

- 能海寛の映画化と能海寛記念館の具現化
- 観光モデルコースの設定 (探検の森、哲学の散歩道、文学の散歩道、黒金と和紙の
- 観光案内板の設置

道)

- 観光総合パンフレットの企画作成
- 塾、広島大学) 大学キャンバスとの交流(早稲田大学、東洋大学、慶応義
- 観光施設の駐車場整備(冬期間の集団駐車場を兼ねる
- 大型公営公衆便所(駐車場付近)の設置
- 日本演劇賞としての『抱月杯(トロフィ ノ創設
- 日本探検賞としての『能海寛杯』の創設

【長寿医療福祉部会】

- 長寿社会での福祉学習と予防医学、食文化を考える
- 地方自治と地域福祉(シルバー ・タウン構想)
- 有料老人ホーム(温泉付)の設置



一般公開フォーラムの模様(H3.3.24)

生涯教育を求めて ― むらおこし・ まちづくりの発信基地 ――

広島大学教授 佐々木 正 治

今、全国各地で、生涯学習のまちづくりをめざした先駆的な取り組みが広がる気配をみせている。「生涯学習を進めるさいたま県民運動」(埼玉県)、「生涯学習都市宣言」をした掛川市(静岡県)、「生涯教育の実現」をめざす金ケ崎町(岩手県)などが、いち早く、この面の最前線として名乗りをあげた。

臨教審が第三次答申で「生涯学習をすすめるまちづくり」の構想を打出しているので、今後、一段とまちづくりの動きに弾みがかかるであろう。文部省も、大臣官房政策課が教育改革のための研究委託を行い、既に幾つかの地域で「生涯学習まちづくりの研究」を開始した。更に、昭和63年度の概算要求にも「生涯学習のまちづくり推進事業」を組み込んでいる。建設省は、お年寄りなどを対象とした生涯学習施設と住宅団地をセットで整備する「生涯学習のむら建設推進事業」をスタートさせた。こうした「むら」づくりを支援するため、建設省は、市町村に対して整備計画の策定費を補助したり、生涯学習センターの設計や建設費についても助成措置を講じるという。

一方、文部省は、生涯学習のまちづくり事業を実現する上で必要な推進機構に関して、「生涯教育推進会議」の全県必置を打ち出している。この会議は、関係機関野連携、協力の促進、教育資源の効果的活用、生涯学習プログラムの開発などのほかに、「生涯学習のまちづくり」のモデル地域の選定を行うことを所轄事項としている。

生涯教育の推進は、ここにきてにわかに従来の生涯各期への対応といった個人のタテ軸を重視したした取り組みの枠を越えて、ヨコ軸を重視した生涯学習のまちづくり事業へ発展する勢いをみせてきた。こうした状況の中で、いち早く、生涯学習のムラおこし、まちづくりに先鞭をつけられた波佐文化協会の取り組みは、誠に時宜を得たものと言わざるをえない。この種のまちづくり事業には、首長部局が主導して、国が描いた図式をそのまま実践し、そのための機構づくりのみを先行させているといった事例が多い。

それに比し、波佐文化協会の取り組みは、地域住民主導で、しかも、人づくりをまちづくりと連動させながら進めておられる点で極めてユニークな取り組みといってよい。それは機関誌の名前のとおり「なわて」からのスタートであった。「なわて(あぜ道)」が「波佐寺小屋セミナー」につながっていた。今後、どのような発展をみせるのか楽しみでならない。広大の山本多喜司教育学部長先生のお薦めもあって私がこの町とかかわりをもたせていただいたことを大いに感謝している。というのはほかでもない。この町ほど活気づいた、成人男子中心の社会教育活動を今までみたことがなかったからである。社会教育では、青年、婦人、高齢者の補助事業はあっても成人男子のそれはない。まさに、社会教育の谷間からのスタートであった。更に私が驚いたのは、いわゆる社会教育は無料といえのがこれまでの公的社会教育のお定まりの方法

であったのを覆し、ここでは身銭をきって学習しておられたからである。受講者の方々の生き生きとした学習への構えも、こうした身銭を切って学習に立ち向かうという真剣で、主体的な学習へのかかわり方から生まれたものに違いない。この講座は、昼間のきつい労働の後、夜の7時から始まった。たいてい、夜間、労働の後、しかも男子成人をも対象にしての教育問題シリーズでは、どこでも居眠りをする人が一人や二人は必ずいるものだが、誰一人居眠りをする人がいない。出席率も極めて高い。通常の講座ものの出席率は山型曲線を描き、中期からは急激に出席率が下降するものだが、ここではそれが見られない。このほかにも感心させられたことは少なくないが、ここでは紙数の関係でめばしいものだけを2、3挙げるに留めておこう。

まず第1は、「郷土の歴史に学ぶ姿勢」が貫かれていることである。これは、りーダーの隅田正三さんが歴史研究家であるということにもよるかもしれない。が、「郷土の歴史に学ぶ」とは、単に歴史的遺物を堀り起こして床の間に飾り、観賞することではない。郷土の歴史をつくった人達の、その創り出す精神に学ぶことにほかならない。この種の大いなる精神として隅田さんが私を能海寛に引き合わせて下さったことに、私は、ひそかに感謝しないではおられない。あれは、講演が済んでの翌日、朝まだき、隅田さんに連れられて能海寛の遺跡巡りをした時からである。あの時の光景が今なお鮮やかに思い起される。仏教の真髄に迫るために身の危険を押して鎖国のチベットにまで出向いたあの熱烈な「求道」の精神が液佐寺小屋セミナー参加者にも脈打っているような気がしてならない。このセミナーは、従来の「承り学習」を中心にした〔享受型の学習」から脱皮し、徐々に「参加・創造型」の社会教育を創り出していくものと確信する。こんごは、遠隔教育など我が国の生涯教育推進の上でモデルとなるような事業を次々と計画していくという。

次に注目されるのは、液佐寺小屋セミナーが、良きリーダーを得て、更に良きリーダーの養成を目指しておられる点である。事業成功の陰には必ずといってよいほど良きリーダー、熱心なリーダーの存在が指摘できる。このセミナーも例外ではない。隅田さんとそれをサポートしておられるブレインの方々の熱意にはほとほと頭が下がる思いがする。人のために尽すということは、なかなかできることではない。

最後に、人間性に深く根ざし、人間性を高める生涯学習活動を基軸に据えたムラおこし、まちづくりをすすめるための生涯学習の推進という図式は、これまでにも多々見られた。しかし、「まず、人づくり、しかる後まちづくり」という図式や、そのための理論構築の事例は極めて乏しい。今日のような飽食時代のムラおこしやまちづくりは、1960年のそれと異なり、単に住みよい、豊かなまちづくりというだけでは満足できない。人間性に深く根ざし、人間性を高めるような文化の香り高いムラおこしのあり方が問われているのである。この意味で、波佐が先導的にノウハウを創造したならば、「生涯学習の最前線」として宣伝されている掛川市などを追い越すことも容易であろう。波佐が、真の意味でムラおこしのモデルとなり、「地方でありながら情報の発進基地」に発展されることを祈念してやまない。

 $(1988 \cdot 4 \cdot 5)$

ふるさとカルチャー 「なわて塾」

平成元年2月~3年3月

岡岡佐金藤前横岡隅松斎稲河清岡能 田本岡崎井田山本田川藤田野水本海 治利常和八 隆正正正康 一 文 夫道喜人子寛子儀三幸雄堂秀惇男登

「受講者一覧」

岡青酒中加槇隅美上三小加上田槇山 田木井谷納田田川山浦金地山中田崎 妙 憲忠昭 ジ哲 勝哲昭 夕修義 子覚正夫則コ夫栄子夫雄学均ヨ身高

ふるさとカルチャー「なわて塾」

(1) 住民の自己教育力の育成

Ш

二十一世紀に向かって

ふるさとカルチャー『なわて塾』の創設

見が続出、午後五時三十分散会した。 佐々木正治先生の特別講演。記念撮影。ディスカッション を高めるふるさと創生=」と題して広島大学教育学部教授 治先生を迎え、向こう二年間運営をして行くこととした。 山本多喜司先生、副塾長に広島大学教育学部教授佐々木正 ら塾生三十名でスタートした。塾長に広島大学教育学部長 指すことを目標に、平成元年二月(毎回偶数月に開催)か 自己教育力を高め、高齢社会と福祉社会への対応を学びな 「ふるさと創生・塾生の提案する事業について」貴重な意 一時から開催した。「町づくりの今日的意義=自己教育力 がら地域開発をも創生するふるさと「カルチャー塾」を目 開塾式は二月十一日に三浦金城町長を来資に迎えて午後 波佐文化協会では、ふるさとの参加創造型学習と住民

を行っていくこととなった。 り四つの部会に分類して専門部別研究部会を設けて塾運営 また、ディスカッションの意見を参考にして、第二回よ

1 自然環境部会=波佐の自然環境を活かした活用(泉源 探査なども含む)

2 特産開発部会=農林水産物から加工品、 土産品の開発

3 観光開発部会=潜在的観光資源の活用とPR(誰もが (頭脳提携)

4 長寿福祉医療部会=長寿社会での福祉学習と予防医学 案内できる学習体制づくり)。 フづくり。 観光青写真・観光パン

食文化を考える。

全ての部会に参加できます。 固定日に部会を開催した。奇数月の専門部会には、塾生は ③は十五日に、④は二十日に、曜日に関係なくそれぞれの た。また、専門部会は奇数月に①は五日に、②は十日に、 カ月に一回(偶数月)に、その都度、招へいすることとし これら四つの専門部部会によって部門別の専門講師を二

行動する学習を推進するためのものです。 専門部会を設けた経緯は、今までの座学から一歩進んで

【第一回なわて塾】 特別講演

『町づくりの今日的意義』 開催日=平成元年二月十一日 (土)

広島大学教育学部教授 佐々木 正 治 先生

現代の町づくり計画。

地域の教育力。

- 学習社会の構想。 国民大学とは。

自己教育力とは何か。

- (8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1) 地域学習社会の形成。 余暇社会の先進的な教育。
- 社会変化の動向と町づくり。
- 成長社会から成熟社会へ。
- プロジューマ化。
- ライフ・スタイルの変化。
- 町づくりの手法について。

くりの今日的意義」について講演を拝聴した。 「なわて塾」のスタートに相応しい示唆にとんだ 「町づ



第1回なわて塾の模様

【第二回なわて塾】

開催日=平成元年四月八日(土)

『自然環境開発について=鉱泉学から見た泉源探査=』

広島大学理学部教授 添 ⊞ 先生

- 1 鉱床学とは(鉱石と鉱床)
- 2 3 温泉法でいう温泉の定義とは 化学的組成による分類
- 4 温泉計画に必要な学問体系
- 5 リゾート整備において把握すべき地域資源
- 温泉探査について

義され基調講演の後、活発なパネルディスカッシュンを行っ ある。また、波佐陥没体および匹見断層について詳しく講 にはラドン泉質が多い、地温計測による方法が一番簡単で による調査、ラドン計測による調査、花崗岩質では一般的 見つけ方、航空写真による判読、リニアメント(断層線) 地質学上からどのような地形に温泉が出るのか、温泉の

探るための泉源地温探査を波佐地区(西谷上町内会から深 月二十二日~二十三日の二日間に亙って、温泉の可能性を 笹下町内会までの五キロメートスの間、二五○地点にわたって地 この講演のあと「なわて塾」の自然環境開発部会では七

> をしめした。 二地点、 点(新井屋原・馬場・三栄の各一地点)が異状に高い数値 十一地点が地温が高い数値を示した。特にこの中でも三地 町内で一地点、三栄町内で三地点、深笹下町内で一地点の 査方法は「地中用精密温度指示計UV-15」を用いて実 下六〇~九〇サントメーーヒ、地点の温度調査)をおこなった。調 この結果、西谷上町内で一地点、新井屋原町内で 亀谷原町内で一地点、馬場町内で二地点、弋手原

なかったので、特に地温の高かった三地点の周辺の水田に ついては再調査が必要である。 今回の調査は、水田の水張り面についてのみ調査ができ

-254 -

成果に期待したい。 るという情報を得た。今 ④落谷→不ケ来原。など 後の電磁波探査等の測定 の接する交点が有望であ 直線に交差する①才の峠 ことは匹見断層群(若生 →笠松谷 ②半場山→藤 の波佐川沿いに平行する から三栄の有田淵まで) この地温調査で判った ③漆谷→細田



第2回なわて塾の模様

三その他

富むものの考え方を学びました。 気の中での講演がなされた。特産開発全般について示唆に 中川先生は、浜田市ご出身ということで、和やかな雰囲

【第三回なわて塾】

『淡水魚の養殖について』 開催日=平成元年六月十日(土)

広島大学生物生産学部教授 中 川 平 介 先生

水の利用) アンモニア、メタン、有機物、水温のバランス、 養殖の条件(大きくなること、PHについて、 温廃 硬度、

いろんな淡水魚の養殖

外敵によるロス

4 ニ、ブラックバスは生態系を狂わす。草食性又は雑食 性が最上。成長の早いことが一番だが大水害に注意。 マス類は成長が早くて卵を生んで種苗が楽なこと、強 い、慣れ易い、飼い易い) 魚種(自然の生態系を狂わせない、アメリカザリガ

養殖は二十四時間

0 用) 種苗が手にはいるか(自家生産、種苗センターの利

0 餌の問題

二 生産物の加工と生産 加工

第3回なわて塾

【第四回なわて塾】

開催日=平成元年八月十二日(土)

『観光の基礎と観光診断』

島根県観光学会長

松江高等教授 \blacksquare 成 矩 先生

かに関わっている。 観光の原点は人づくりで、しっかりしたリーダーがいる

講演された。 よく理解→未来を考える手懸かりをさぐる」ことが大事と 観光学は新しい学問であるが「過去を学び→現在をより まず、観光の基礎とは、

- 1 魅力(ひきつけるもの)
- 2 個性(ほかの地域にないもの)
- 豊かさ(心が豊になるもの)
- また、観光診断では、
- 1 客のニーズに対応できているか
- 2 愛される町であるか(再訪)
- 3 働ける施設があるか(わかものがいること)

光るもの、歴史、ロマン、音楽、風光

- 4 健康的スポーツ施設があるか
- などを挙げて具体的に講演された。 優れた担い手がいるか(自分がやるという力)

【第五回なわて塾】

開催日=平成元年十月十四日(土)

『長寿社会と福祉について』

森の木園理事長 室

89 10

14

誕生した。豊富な体験を基に今後の福祉への指針となるも のの考え方を基調講演いただいた。 に情熱をかけられた結果、今日の桑の木園福祉エリアーが 室崎先生は、二十余年に亙って授産福祉施設の整備拡充

が良いのではない。子供たちと後ろ向で話をする様な現在 ービスが毎日できるような体制づくり、 長寿社会に向けて人間の豊かさとは、物を沢山求めた方 また、二十四時間ケアー体制づくり、老人の給食サ 人を認めた呼び方が出来る人づくりが 物を集めた数ではなく、自分がやり遂 豊かな社会とは、 「おばあちゃん」でなく、「〇 崎 富 ケアーのできる町 心を耕すことで 恵 先生 ふるさとカルチャ 至時富恵先生

だ(忙しさから)、

○さん」と呼ぶこと)。 大切(「おじいちゃん」、 げた事の数が大切。

などについて講演された。

第5回なわて塾の模様



第4回なわて塾の模様

【第六回なわて塾】

『中国山地の自然について』 開催日=平成元年十二月 九日(土)

島根県自然観察指導員 中 幾多郎 先生

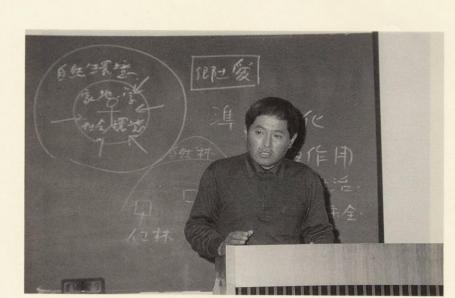
された。 映写しながら、自然と動植物の関わりについて詳しく講演 する動・植物の生態をカラースライドに納められたものを 田中先生は、中国山地をくまなく歩かれ中国山地に生息

キノワグマは中国山地では絶滅するだろう」とクマという 力があるので自然災害の防止からも落葉樹の自然林を保全 食性)の違いについて話され「このままではあと五年でツ 北海道のヒグマ 「ブナの大木一本が水田十アールに匹敵する保水 (肉性)と中国山地のツキノワグマ(草

する必要がある」と豊富な体験と知識を基に講演された。 人間の共生の在り方について保護の必要を訴えられた。

波佐文化協会

第7回なわて塾の模様



第6回なわて塾の模様

【第七回なわて塾】

『文化財と町づくり』 開催日=平成二年二月十日(土)

古代史研究家 速 水 保 孝 先生

日本書紀の神々の系譜について講義を受けた。 は、と前置きされ、人種・民族について話され、 波佐地区は古くから外国との国際化が始まっていたので 古事記·

た所という意味。 また波佐(ハザ・ヒザ・ヘザ)は、非常に早くから開け 石見(イワミ)の、イ母こんな、ワ母ほとり、 「こんな海のほとりに有る地区」という意味。

民族の分析持論を講義された。 という意味であるので、このようになった。 来原(KWRU⇒銅・BALA⇒村)とは鉄をつくる所 血液型による

賞を創設してはどうか。 での演劇発表が出来ることが大切だ。 と結ばれた。 ふるさと創生で抱月

町づくりについて、島村抱月と新劇のドッキングで当地

【第八回なわて塾】

『正倉院の宝物に見る国際性について』 開催日=平成二年四月十四日(土)

国立奈良博物館資料調查研究室長 前 先生

講義を受けた。 国外に目を向けた文化的交流について。 国分寺、 国分尼寺、校倉造り。 などについて前半の 正税、 正倉、 正

終着駅とも言える。 国からお土産品等を持ち帰った。 して輸入された。 奈良時代は海外との公益が盛んであった。 べっ甲、などの産地からの物品がシルクロー 正倉院には、 トルコ石、 正倉院はシルクロードの 琥珀、 遣唐使等は外 を経由 アコヤ

また琥珀の道について

- 1 一枚の螺細鏡
- 2 琥珀研究の現状
- 3 文献にあらわれた琥珀
- 4 琥珀の産地同定
- (5) 琥珀玉出土遺跡のあり方
- 琥珀玉需要の急増とその背景
- 7 中国へ運ばれた琥珀。

ついて研究成果を詳しく解説された。

【第九回なわて塾】

開催日=平成二年六月九日(土)

『地域開発と今後の課題』

島根大学法文学部教授 内 藤 正 中 先生

地域開発と今後の課題

造ったのは真宗の坊主たちが作った。 安芸門徒と石見門徒の違い。浜田圏域の学校、病院施設を 石見には八幡宮が多いのはなぜか(歴史として考えること)。 村を愛する思想⇒情報化社会(個性と特色をもつこと)。 域に根差す特長を地域から自己主張ができる体制づくり。 態が多い。 地域開発は行政指導型がほとんどで、資本金対象の開発形 観光については高い時点から考えてみることも大切だ。 村に住む人の哲学が先ず第一に必要である。

1 子供たちの作っ た版画作品による絵葉書の製作

ふるさとカルチャー な

わ

て 塾

- 2 木炭生産のノウハウの記録
- 先代から伝わった冷蔵庫の無い時代の保存技術の伝 (おばあちゃ んひ母母娘)
- 4 サイクリングによる時間消費型のスケジュ
- 5 観光マップの作成(ネットワークを含む)
- 7 6 の対応が楽になる(バス・トイレ⇒高齢化・幼児共通) 民宿の開発を期に改造計画を立てておくと「客」と 食事処の必要性(浜田~広島間に少ないので、波佐

第9回なわて塾の模様



第8回なわて塾の模様

などについて講義と提案を戴いた。 に止まれば、美味しいものがあるよというPR)

- ることになる。女性の社会進出が多くなった。全国四 ○歳代昭和三○年は一五パーセント、昭和六○年は五 老人福祉法が改正され平成五年より市町村主体でや
- 脳溢血が多い。 かったが現在ではガンが多い。また入院者については疾病構造(死因は感染症⇒成人病)昔は脳溢血が多
- の活用についてはまだまだ考える余地がある。 高齢者像(六○歳~七六歳をどう過ごすか)アンケ トでは七〇パーセントは身体に異常なし。余暇時間
- については内容の改善が必要。ディサービスセンター (短期入所=七日以内) は平成六年までに全市町村に 明るい長寿社会推進機構⇒県の段階で実施(イベン 行政の役割⇔在宅福祉と施設福祉がある。施設福祉 引き続きサブセンターづくりも行う。
- いて詳しく解説の上講演された。 国で実施(高齢者保健福祉推進一〇カ年戦略)などにつ 施(健康づくりモデル事業)。 人材ネットワーク)。町村で実

【第十一回なわて塾】

『みんなで出来る観光ガイド』 開催日=平成二年十二月十二日(土)

石見観光専鷹バスガイド塚 全立 高 スミエ 氏

ガイドの心得として、 石見交通に車掌として入社後、観光ガイドとなる。 観光

- 観光案内は通過中はしない
- その場に合った話をする。 お客様を退屈させない。
- は、材料など、と細やかなことも必要である。 れの手で造られ、改修・再建されたか、祭司は、 ニュースも入れる。神社などについては、い つ、だ 広さ

-263 -

である。 までぐらいは、どこの大杉であると知っておくことが必要 常磐山の大杉などは県下一番の大杉であるが、第三番目

会社宛てに送ってもらいたい。 観光のPRは観光会社へも必要である。 おおいに情報を

観光ガイドのあり方についての指導と助言を戴いた。 また、長年のガイド体験談を交えて町民みんなが出来る

【第十二回なわて塾】

『古墳を探る』=王墓の時代の金城= 開催日=平成三年二月九日 (土)

島根大学法文学部教授
田中 義 昭

まで田中教授、大谷浜田高校教諭、同歴史部員二名を伴っ て千年比丘墳墓に登山した。 講演に先立ち、現地調査のため当日午後二時から五時半

講演では、

- 古代の氏と家族
- 千葉山田水呑遺跡の村落と古代住居
- 埼玉県稲荷山古墳出土品の銘文の解説
- 前方後円墳の変遷
- 横穴式石室について
- 山陰須恵器型式変遷について
- 銅鐸の変遷について

頃の可能性が大であるが、具体的には、学術調査に拠らな ければ判明されない。段丘上に続く南側にも土壙墓がある 可能性もあるなどと講義された。 については、千年比丘の北側の段丘上の円墳は三~四世紀 などについて詳細に解説された。引き続き千年比丘墳墓



第12回なわて塾の模様

【一般公開フォーラム】

観光&長寿福祉』

提案書」を作成しましたので、ご参照下さい。

(以下二十

年間の活動内容を掲載)

塾』一般公開フォーラムの開催に当たり、ふるさとカルチャ 町づくりを模索して今日を迎えております。今回『なわて

『なわて塾』専門部会で検討し取りまとめた資料「企画

会 場=金城町波佐・エクス和紙の館 開催日=平成三年三月二十四日(日)

主催者=波佐文化協会 援=金 城 町

金城町社会福祉協議会

公 公 公 ☆ ☆

ات

上げました。 化率(平成二年七月調査)は金城町で二一・二四%。 五・九一才、女性八一・七七才)で、心配されている高齢 ラムでは、今日的課題「観光&長寿福祉」をテーマに取り 二十一世紀まであと九年。人生八十年代の到来(男性七 波佐地区では二四・四%に到達している。今回のフォー

> くお願いします。 やしております。

平成三年三月二十四日

波佐文化協会長

田

正 三

公

公

公

公

公

消するために設立した民間文化団体です。 の社会情勢と、過疎、出稼ぎ、高齢化の三つの問題点を解 昭和四十七年八月一日産声をあげた波佐文化協会は当時

リレー・トーク①

『長寿社会に対応する生涯学習と町おこし』

早稲民学教授山本 多喜司 先生

町おこしのパイオニア波佐文化協会

生涯学習のすすめ

三 ライフステージと生涯学習の課題(ライフブラン)

六 五 四 人生にくだり坂はない(タオリティ・オフ・ライフ)

新しい地域文化の創造と町おこし

燃えろリーダー(一人一なんながリーダー)

きれいな水と山の緑、輝く人と町 歴史と文化の香り高い、住みよい波佐の町をいつ そして太陽。

までも

0 ・トーク②

『長寿の世紀を迎えるに当たって』

北里大学東病院副医院長

久 幸

先生

(2)

高齢者による観光地づくり

高齢化社会の構造

わが国の現状

(2) (1) 高齢化社会の現状

(3) 高齢による心身上の変化

医療と福祉

医学と医療

(2) 「福祉」と「慈善」

「長寿福祉の里」へのプロローグ 長寿社会への設計図

(3)

(1) 送れる施設」 「心身にハンディを持ちながら充実した生活を

(3) (2)「生きがい」を見いだす生涯研修

「福祉の心」を育てる

0 リレー・トーク③

『長寿社会に対応する金城の観光』

島根大学法文学部教授
内 正 中 先生

長寿社会への対応

高齢者ニーズに対応する観光開発

金城町の観光

観光地としての立地条件 金城の観光資源

地域ぐるみの体制はできないか 資源は開発整備されてい るか

- 265 -

おります。我々は、生涯学習を通した町づくりに意欲を燃

今後ともご支援をいただきますよう宜し

これらを通して、一貫した生涯学習体制で今日に及んで ◇講演会、映画会、座談会、フォーラムなどの開催 ◇ふるさとカルチャー「なわて塾」の開設

(昭和六十一年七月~昭和六十三年三月)

◇リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」 ◇季刊「なわて」誌の発行(顆至八年育~鞮) ◇波佐成人学級の開設(顆四十年十月~顆五十年一月)

の開設

-266

- どのような観光地をめざすのか
- (2) (1) 金城カントリークラブ、 美又温泉を中心に
- 運動公園を中心に
- (5) (4) (3) 島村抱月と能海寛 エクス和紙の館を中心に
- 千年比丘古墳の発掘
- 町民が誇りの持てるもの「煙をごくり」





フォーラムに迎えた講師陣 (たから佐々木・内藤・古和・山本の各先生)

次のとおりです。この中から実施実行可能なものから手掛 けていくこととなった。 ふるさとカルチャー 『なわて塾』専門部会別集約結果は

【自然環境部会】

- 波佐川の自然環境を活かした観光資源の活用
- 鉱泉学から見た泉源探査(地温探査法)の実施
- 水資源の活用・波佐川の自然愛護とヤマメの渓流づり
- 周布川の環境・水質の保全を考える(名水のPR)
- 伝統的食文化の継承
- 自然観察(サイクリング)と中世城郭の学習(山岳OL)
- 史跡『千年比丘古墳』と波佐一本松城跡を連携した 歴史公園として整備活用を図る

【特産開発部会】

- 農林水産物から加工品、土産品の開発 (頭脳提携=アイデアの募集)
- 有人特産売り場、 特産物を用いた食事処の誘致
- 観光と農林業の一体化を考える
- ふるさと小包の開発
- 特産品の一体化(中身とパッケージ) の開発
- 地域にマッチした特産品・土産品の創作

【観光開発部会】

- 潜在的観光資源の活用とPR (誰もが案内できる学習体制づくり)
- 観光青写真づくり
- サイクリング・ターミナルなどの誘致
- 能海寛の映画化と能海寛記念館の具現化

セカンド・ハウスとしての「ログ・ハウス村」の建設

- 観光モデルコースの設定
- (探検の森、哲学の散歩道、文学の散歩道、黒金と和紙の
- 観光案内板の設置
- 観光総合パンフレットの企画作成
- 塾、広島大学) 大学キャンバスとの交流(早稲田大学、東洋大学、慶応義
- 観光施設の駐車場整備(冬期間の集団駐車場を兼ねる
- 大型公営公衆便所(駐車場付近)の設置
- 日本演劇賞としての『抱月杯(トロフィ
- 日本探検賞としての『能海寛杯』の創設

【長寿医療福祉部会】

- 長寿社会での福祉学習と予防医学、食文化を考える
- 有料老人ホーム(温泉付)の設置 地方自治と地域福祉(シルバー・タウン構想)



般公開フォーラムの模様(H3.3.24)

石峰&抱月のふるさと金城町「地域まるごと博物館」

http://www.hazaway.com

